

ラムサール条約湿地学んだよ

出水・切通小と新潟・岡方第一小 オンラインで交流



新潟・岡方第一小学校の環境保全活動の説明
を聞く切通小学校児童
＝出水市境町

植物が違うことが知れて楽しかった」と話した。

(山本輝志)

出水市の切通小学校と新潟市の岡方第一小学校が7日、オンライン交流した。両市は2022年6月、水鳥の生息地として重要な湿地を守るラムサール条約の「湿地自治体」に国内で初めて認証されている。児童らは、学校紹介や環境保全活動の発表を通して親睦を深めた。

切通小は条約に登録されたツル越冬地から離れているものの、湿地自治体認証を機に環境教育に注力。阿賀野川流域の三日月湖「十二瀨」の保全活動で新

潟県の環境賞を受けた岡方第一小に交流を打診、実現した。

岡方第一小は6年生16人が参加。コハクチヨウが越冬する条約登録地「佐瀨」を紹介し、アサザやガガブタといった希少な浮葉植物などを盛り込んだ十二瀨のパンフレットを作ったことを説明した。

切通小は5、6年生10人が、条約について学習したことを発表。出水に飛来するツルの種類数を尋ねるクイズも出した。6年山内美波さんは「地域によって動